

六地藏考証



近隣を歩き回っているうちに、六地藏の存在が気になってきた。ねんごろに屋根つきの祠にどっしりと並んでいるところが多いけれど、同じ六地藏なのに、雨ざらしで無縁仏のように放置されているものも目立つ。それに放置されているのは背面が石のままの浮き彫りが多い。全身像で放置されたものに遇ったことがない。全身像は比較的新しいものだからか。近隣の狭い範囲で撮った写真を眺めていると、不思議な思いに捕らわれる。あてにならない考証である。



九月二十四日は地藏菩薩のお祭りである。地藏盆とか地藏会という。蕪村に「地藏会や近道を行く祭り客」というのがある。巢鴨のとげぬき地藏尊大祭は九月二十四日、ここでは、一月と五月にも大祭がある。

弥勒仏が現れるまでの56億7千万年間の衆生を守る

江戸や京都の六地藏めぐりというのには、お寺に一体ずつがあり、それを七福神のように参拝する。それを一か所に集めたのが、ここである。六地藏である。お釈迦様が亡くなって未来仏の弥勒菩薩が現れるまでの五十六億七千万年の間を、われわれ衆生を守ってくれるというのが地藏菩薩である。それだけに、身近な仏様で、子どもの守り本尊とも言われている。人間は六道を輪廻転生、つまり迷いの生死を繰り返す。その繰り返す場所が六道、地獄道・餓鬼道・畜生道・阿修羅道・人間道・天道である。その六道を上図のような六体の地藏が立ち、礼拝の対象になった。どこに生まれ変わるか分からないから、六道を一度に拝んでしまおう、というわけである。路傍に立たれる地藏は、右端の地獄道である。地獄行きの人が多いということか。右手に錫杖を持ち、左手に宝珠を持つ。